

8月例会 八ヶ岳縦走 阿弥陀岳(2805m)～赤岳(2899m)～横岳(2829m)～硫黄岳(2760m)

日時 令和元年8月25日～27日

参加者 CL船越 SL藤川^豊 佐々木 前田

小林^陽 近藤^嗣 小林^宮 近藤^浩 神山 西崎 森田 藤川^神 岡野 墨江 小田 飯國 梶原
秋山 (以上18名)

行程と概要

8月25日(日) 晴

美濃戸口集合(14:30) 出発(14:50) → 美濃戸山荘(16:05) 泊

現地集合場所の美濃戸口に於いて定刻に例会開式、その後、11名は美濃戸山荘まで歩き、7名は自家用車にて山荘まで移動。宿泊は男女同室の大部屋です。

8月26日(月) 晴

美濃戸山荘(6:00) → 行者小屋(9:30) → 中岳コル(10:45) → 阿弥陀岳(11:20) → 中岳コル
(12:30) → 赤岳(14:15) → 赤岳天望荘(15:00)

文三郎新道ショートカット分隊は 赤岳(13:20) → 赤岳天望荘(14:30)

南沢コースの暫くは歩き易い樹林帯ですが、次第に岩が転がる急登になり、かなりの体力を使いました。行者小屋までの所要時間を検討した結果、当初からの予定通り希望者を募り、文三郎分岐にて2隊に分割しました。阿弥陀岳登頂本隊(リーダー佐々木)14名とショートカット分隊(リーダー船越)4名に別れました。阿弥陀岳登頂本隊から更に中岳コルで分かれた3名がショートカット隊に合流し、分隊は7名になりました。岩稜帯を抜けて赤岳山



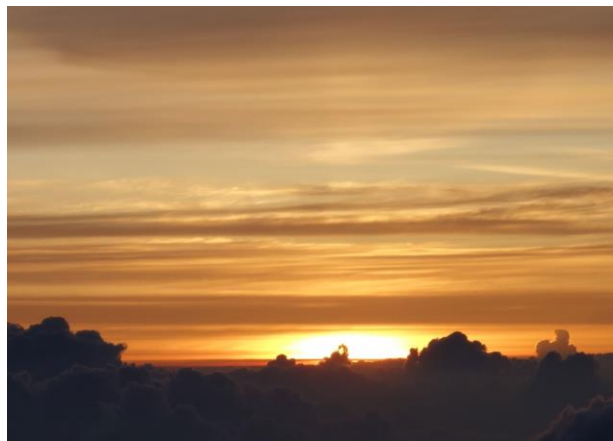
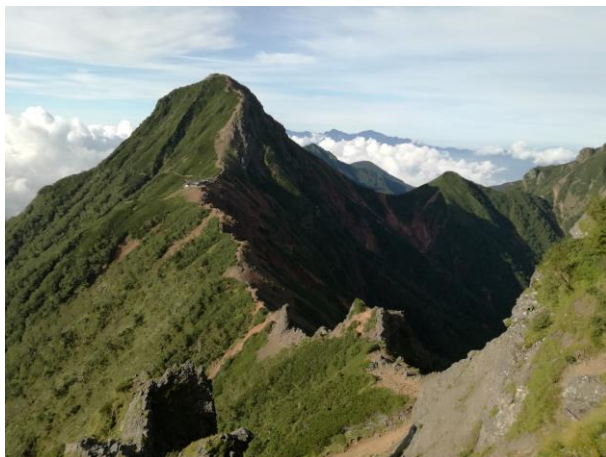
頂に着く頃、ガスが巻き始め体感温度も下がってきました。この為、先着した分隊は本隊との合流を諦め赤岳天望荘に下山し、30分遅れて到着した本隊を迎えました。

阿弥陀岳登頂記録(SL佐々木) 中岳コルより11名で、ハシゴ、クサリを手繰り、足場をさぐり、腕を伸ばし三点確保で岩山を登りました。30分で頂上に着き、360度の展望を楽しみ下山。短時間で一つの山を制覇し達成感を味わえました。

8月27日(火)晴

赤岳天望荘(6:30) → 横岳(8:10) → 硫黄岳(9:40) → 赤岩の頭(10:05) → 赤岳鉱泉(11:25)
→ 堰堤広場(12:45) → 美濃戸(13:25) → 美濃戸口(14:40)

最終日、ご来光を拝んだ後 出発準備に掛りましたが、他パーティーの負傷者1名を運ぶヘリの飛来があり、足止めをくらい、我々は30分遅れの出発となりました。今朝も良く晴れてくれ、昨日登った赤岳と日本一の富士山を背にしながら、皆笑顔で横岳に向かいます。



岩の稜線を右サイド、左サイドに移動しながら、ハシゴやクサリ場を上り下りする息のつかない岩稜が続きます。横岳に着いたと思えば石尊峰、あれだと思っても三叉峰、やっとのことで横岳に着きました。何とこの難路で出発遅れを

10分も取り戻しました。やっと硫黄岳山荘でトイレ休憩を取りました。この一帯はコマクサの大群落ですが、少し時期を過ぎた遅咲きがあちら、こちらに私達を迎えてくれました。硫黄岳で爆裂火口を眺めた後、美濃戸迄1,400mの大下りが始まります。特に赤岳鉱泉迄の700mの下りでは未だか未だかのタメ息が漏れていました。でも赤岳鉱泉からの北沢コースは登りの南沢に比べてとても歩き易く、疲れた足には好都合でした。

振り返れば、我々は高齢者、それに新人もいましたが皆大したもの。さすがみつがしわ山の会、険しいハケ岳の縦走でしたが、今後の自信になったと思います。日本一の富士山を背にしながら、緊張感と満足感に浸ったハケ岳縦走を全員協力の下、上首尾に終えることができました。新人の視点からの感想を下記にお願いしました。(CL船越)

人生初の山小屋泊の縦走（SL 前田）

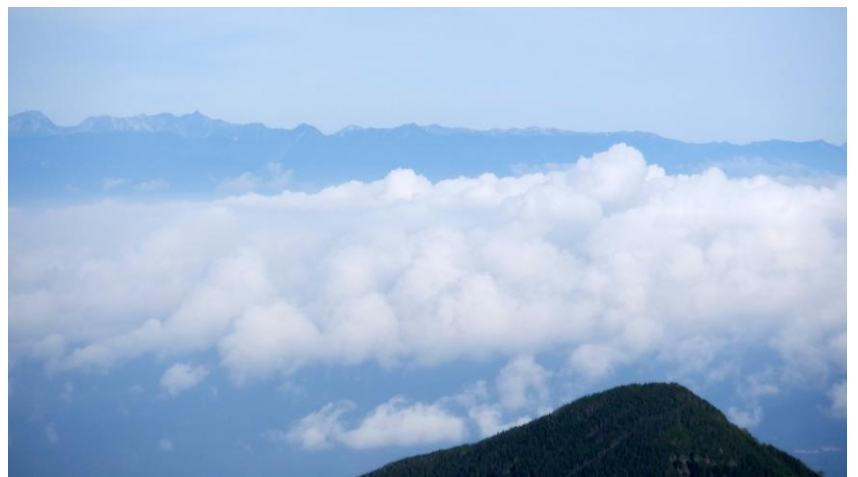
1日目 JR利用組の人達は美濃戸口からウォーミングアップを兼ねて美濃戸山荘まで歩く。この頃まではまだ楽勝だった。

2日目 美濃戸山荘6時出発 南沢コースで行者小屋を目指す。歩きはじめは沢沿いで、樹林には苔が一面に生えていてとても綺麗で気持ち良く歩きました。行者小屋に着いた頃には体調がすぐれない人もいて、CLの船越さんと他3名が別ルートで赤岳を目指す。私達14名は中岳の科尔を目指す。途中船越さん達の姿が向かいの山に見えて手を振ったり叫んだりした。中岳の科尔到着後、希望者11人が阿弥陀岳に登る。私も頑張って挑戦しました。上りは鉄の梯子があったり、急登で大変でしたが先輩方の指示をうけながら何とか頂上へ到着。下りる時も指示を守りながら下っていたが、1ヶ所足の踏み場がわからなくて怖かったけど、ベテラン先輩の誘導で無事下山出来ました。ほっとしてお弁当食べて、さあ赤岳頂上を目指す。後は阿弥陀岳に登ったような所はないと思っていたら、まだまだ急登で、岩場を登り這いつくばって行く所が現れ驚いた。赤岳展望荘に宿泊、昨日とは違って寝るところが寝袋で、寝返りも窮屈なくらい狭い。ライトを持ってないと真っ暗で何も見えない。人の見よう見まねで動くけど戸惑う事ばかり、これが山小屋の試練か。

3日目 朝起きてご来光拝む。清々しく気持ち良い。富士山の頭も見え隠れしていました。昨夜は夜空を見忘れましたがそんな余裕もなく寝ました。展望荘6時30分出発、救助隊のヘリコプターが来て予定より30分遅れる。この日は尾根を通過するだけと聞いていたので楽勝かと思っていたらとんでもなかった。横岳、硫黄岳

と岩場を下ったり上ったり、目の眩むような場所も通ったけど景色は左には御嶽山、穂高、槍ヶ岳など百名山が並び最高でした。他にも色々な花が咲いていたけどほとんど終わりかけていたのが残念です。スリルもあって楽しめました。

この行程も何とか無事に終える事ができたのも和気アルプスのトレーニングで歩き方の練習、靴紐の結び方、ザックの持物などいろいろ教えて頂いたおかげだと思います。感謝。



コマクサ



リンドウ



やまとりかぶと



ウメバチソウ